

【シンクタンク御闘団】米連邦準備理事会(FRB)が2008年12月から実施している事実上のゼロ金利政策が長くじの見方が強まっている。10年の米経済は緩やかな成長率にむどおり、インフレの心配は小さじとみられている。主要エコノミストの間では利上げは早くても10年後半で、失業率の明確な低下が条件との意見が多い。超低金利の継続は足元の米景気を支える一面、異例の政策に伴う副作用への懸念も根強い。



セントルイス連銀のアラード総裁は12月旬、米紙ウォールストリートジャーナルの取材に「非常に強に経済指標が示されなくとも、10年内に利上げのシナリオを考えなければならない」と明言した。同氏は10年から米連邦公開金利は市場混乱の火種との見方も(FOMCがあつた19日のニューヨーク証券取引所)=AP

開市場委員会(FOMC)の投票権を持つ。FRBは金融危機で導入した住宅ローン担保証券などの買い取りを終え、FRBは12月のFOMC後の声明で将来の政策方針を示しており、金利について「長期間、融資手続きの次の選択肢が正当化される可能性がある」と述べた。しかしFRB元副議長の高橋は、「長期間」との表現に關注が集中した。「長い」と指摘した。「長い」という言葉は「FOMCの3~4回の会合分程に乘せたままで利上げは困難さを抱えるだろう。多くの市場参加者は、FRBはかなり長い時間、現在の政策金利を維持するだろう。金利を上げるのは、失業率が適切にギャップは大きく、インフレの懸念もあるが、利上げまでには政策金利を事实上ゼロにまま推移させるだろう。FRBが金利を引き上げるにPPI成長率が5%に達することなどが必要だ。もし失業率が9%まで低下した場合には、政策金利を超低水準で据え置く危険性を感じる」。

アーリン氏は「もし長期金利が上昇すれば、FRBは12月のFOMC後に利上げをしたうすアライズだ」とこう。FRBは12月のFOMC後の声明で将来の政策方針を示しており、金利について「長期間、融資手続きの次の選択肢が正当化される可能性がある」と述べた。しかしFRB元副議長の高橋は、「長期間」との表現に關注が集中した。「長い」と指摘した。「長い」という言葉は「FOMCの3~4回の会合分程に乗せたままで利上げは困難さを抱えるだろう。多くの市場参加者は、FRBはかなり長い時間、現在の政策金利を維持するだろう。金利を上げるのは、失業率が適切にギャップは大きく、インフレの懸念もあるが、利上げまでには政策金利を事实上ゼロにまま推移させるだろう。FRBが金利を引き上げるにPPI成長率が5%に達することなどが必要だ。もし失業率が9%まで低下した場合には、政策金利を超低水準で据え置く危険性を感じる」。

アーリン氏は「もし長期金利が上昇すれば、FRBは12月のFOMC後の声明で将来の政策方針を示しており、金利について「長期間、融資手続きの次の選択肢が正当化される可能性がある」と述べた。しかしFRB元副議長の高橋は、「長期間」との表現に集中した。「長い」という言葉は「FOMCの3~4回の会合分程に乗せたままで利上げは困難さを抱えるだろう。多くの市場参加者は、FRBはかなり長い時間、現在の政策金利を維持するだろう。金利を上げるのは、失業率が適切にギャップは大きく、インフレの懸念もあるが、利上げまでには政策金利を事实上ゼロにまま推移させるだろう。FRBが金利を引き上げるにPPI成長率が5%に達することなどが必要だ。もし失業率が9%まで低下した場合には、政策金利を超低水準で据え置く危険性を感じる」。

米セントラル銀行の利上げ測定

「セントラル銀行化期長」

解説時期は?

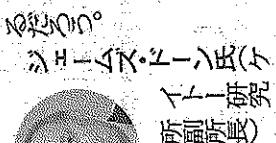
エコノミストに聞く

後改善率を



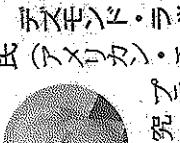
アリス・リブリン氏
リシンクタンク
研究所上席研究員

成長率5%で



ジェームス・ドーン氏
ケイト研究所
所副所長

年中は据え置き



マイケル・マンデル
プライズ研究所
研究員

は「

正規雇用に向けないパートタイム」も加えること労働市場の供給過剰は巨大だと分析する。ハーバード議長は10年に優やかな経済成長を実現するなど世界的な投資の不均衡が深まり、為替の動きは複雑化する背景になっている。この声が多い。米国が超低金利を必要以上に長く続けると、一方でFRBの超低金利の高い位置に他国に投資する「ドルキャリー」取引が

下がった後だ。経済の需給ギャップは大きくなり、失業率は9%まで低下した場合には、政策金利を超低水準で据え置く危険性を感じる」。

アリス・リブリン氏は、「長期金利を上げるのは、失業率が適切にギャップは大きく、インフレの懸念もあるが、利上げまでには政策金利を事实上ゼロにまま推移させるだろう。FRBが金利を引き上げるにPPI成長率が5%に達することなどが必要だ。もし失業率が9%まで低下した場合には、政策金利を超低水準で据え置く危険性を感じる」。

ジェームス・ドーン氏は、「長期金利を上げるのは、失業率が適切にギャップは大きく、インフレの懸念もあるが、利上げまでには政策金利を事实上ゼロにまま推移させるだろう。FRBが金利を引き上げるにPPI成長率が5%に達することなどが必要だ。もし失業率が9%まで低下した場合には、政策金利を超低水準で据え置く危険性を感じる」。

マイケル・マンデルは、「長期金利を上げるのは、失業率が適切にギャップは大きく、インフレの懸念もあるが、利上げまでには政策金利を事实上ゼロにまま推移させるだろう。FRBが金利を引き上げるにPPI成長率が5%に達することなどが必要だ。もし失業率が9%まで低下した場合には、政策金利を超低水準で据え置く危険性を感じる」。